

1. 科目名 (単位数)	異文化コミュニケーション教育演習 (2単位)	3. 科目番号	EIJP3171						
2. 授業担当教員	大橋 真由美								
4. 授業形態	講義、グループワーク、ディスカッション	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>異文化コミュニケーションの教育の一つに、異文化トレーニングがある。異文化トレーニングは主に知識学習と体験学習に大別されるが、講義では知識学習としてトレーニングの種類や内容、効果など認知的側面を扱い、個人による作業も取り入れていく。</p> <p>実践では体験学習としてクラスで実施可能なペアワークやグループワークなどを取り入れながら、異文化コミュニケーションの情動や行動の側面についても訓練していく。また、トレーニングの実践後にはディブリーフィングやディスカッションなども実施し、ルールの違いや行動の意味などについて考えていく。</p> <p>クラスのサイズによってトレーニング内容を調整しながら実施していく。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 未知の環境での生活やストレスとコミュニケーションに先立ち、擬似的に体験したり能動的に行動したりする訓練を通して、経験的知識を習得する。 2. 擬似異文化の社会的相互作用や人間関係の調整における情動を体感し、自己理解や成長を図り、説明できるようになる。 3. トレーニングを通して、問題の早期認識や判断、対応する力に結び付けできるようになる。 								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の事前・事後学習にしっかり取り組む。 2. 授業を通して、ルールの違いや行動の意味について考察する。 3. 日頃から自身のコミュニケーション行動、情動についても振り返り、分析する。レポートの詳細については、講義内で提示する。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書、2013。</p> <p>【参考書】適宜、授業内で紹介する。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準(学習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 未知の環境での生活やストレスとコミュニケーションに先立ち、擬似的に体験したり能動的に行動したりする訓練を通して、経験的知識を習得できたか。 2. 擬似異文化の社会的相互作用や人間関係の調整における情動を体感し、自己理解や成長を図り、説明できたか。 3. トレーニングを通して、問題の早期認識や判断、対応する力に結び付けできたか。 <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合的に評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. トレーニングの実践やグループワークへの参加程度</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2. トレーニング後のディブリーフィングやディスカッションでの発言の程度</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>3. 試験・レポート</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は原則として認められない。</p>			1. トレーニングの実践やグループワークへの参加程度	総合点の 40%	2. トレーニング後のディブリーフィングやディスカッションでの発言の程度	総合点の 40%	3. 試験・レポート	総合点の 20%
1. トレーニングの実践やグループワークへの参加程度	総合点の 40%								
2. トレーニング後のディブリーフィングやディスカッションでの発言の程度	総合点の 40%								
3. 試験・レポート	総合点の 20%								
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。 2. 携帯電話,その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんにしまうこと。 3. 成績総合評価の内「授業への参加態度」は、授業での積極的参加(発言等)も含むため、積極的に授業に参加することが望ましい。 								
13. オフィスアワー	初回の講義で通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマや内容について把握しておく。						
		事後学習	講義内容を振り返り、講義の進め方について整理する。						
第2回	異文化トレーニングの背景	事前学習	教科書 pp.1~9 を読んでおく。異文化環境下で生活するために必要なことは何か考える。						
		事後学習	異文化トレーニングの始まりや歴史的背景について整理する。						
第3回	文化とコミュニケーション・トレーニング	事前学習	教科書 pp.11~18 を読んでおく。「文化」を考える時、どのような捉え方があるのか考えておく。						
		事後学習	「文化」の定義についての考えを整理する。						
第4回	コミュニケーションと相互作用性	事前学習	教科書 pp.19~28 を読んでおく。自身が所属する社会で必要とされる能力とは何か考えておく。						
		事後学習	異なった文脈でのコミュニケーションについて整理する。						
第5回	スキル・トレーニング 1:「双方向対話型」コミュニケーション法をもとにした場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。						
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認する。						

第6回	「多数派(マジョリティ)」と「少数派(マイノリティ)」であることとは	事前学習	教科書 pp.29～36 を読んでおく。
		事後学習	社会における「多数派」と「少数派」であることの違いについて考えをまとめ、これを配慮した上でのコミュニケーションについて考える。
第7回	スキル・トレーニング2:「多数派」と「少数派」間のコミュニケーションの場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認する。
第8回	社会的に構築されたアイデンティティとコミュニケーション	事前学習	教科書 pp.44～58 を読んでおく。
		事後学習	アイデンティティが社会的に構築されるということはどういうことなのか、考えをまとめる。
第9回	「帰属意識」と「私観」がコミュニケーションに与える影響	事前学習	教科書 pp.44～58 を読んでおく。
		事後学習	コミュニケーションに「帰属意識」と「私観」が与える影響について更に考える。
第10回	スキル・トレーニング3:「帰属意識」と「私観」が与える影響について配慮されたコミュニケーションの場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認する。
第11回	「偏見」「ステレオタイプ」「差別」とコミュニケーション	事前学習	教科書 pp.61～73 を読んでおく。
		事後学習	「偏見」「ステレオタイプ」「差別」はコミュニケーションにどのように影響を及ぼすか、更に考える。
第12回	スキル・トレーニング4:「偏見」「ステレオタイプ」「差別」が起こりやすい場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認する。
第13回	「非言語コミュニケーション」の特徴	事前学習	教科書 pp.135～158 を読んでおく。
		事後学習	非言語コミュニケーションに潜む「メッセージ」は人間関係にどのような影響をもたらすのか、考える。
第14回	スキル・トレーニング5:「非言語コミュニケーション」がもたらす場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認する。
第15回	総括:これまでの内容の振り返り、重要ポイントのまとめテスト実施、解説	事前学習	これまでの内容の振り返り、総復習をしておく。
		事後学習	ディブリーフィングについてまとめる。